

特集

よみがえ
甦る為三の調べ

為三の主な作曲と著書



● 浜辺の歌(はまべ)の自筆楽譜

◆作曲

赤い鳥小鳥	北原白秋
秋田県民歌	倉田政嗣
管弦(いとだけの)	明治天皇
うらうらと	加茂真淵
かなりや	西条八十
かへらじと	楠木正行
慶應義塾大学応援歌	柏谷真洋
きたえる足	片桐顕智
古戦場の秋	葛原しげる
さくら変奏曲(ピアノ曲)	
すみれ	良寛

ソナーナ(ピアノ曲)	
浜辺の歌(はまべ)	林 古溪
フーゲ(ピアノ曲)	
二つのローマンス(管弦楽曲)	
望郷の歌	吉丸一昌
ほろほろと	行基
前田小学校歌	高橋政和
松島	松尾芭蕉
山の枇杷	北原白秋
りすりす小栗鼠	北原白秋

◆著書

対位法初步	先進堂
初めて学ぶ人の対位法及びその作曲法	先進堂書店
和声楽	六星館
楽式(作曲法講座3)	音楽世界社
楽器編成法(作曲法講座4)	音楽世界社
和声楽の基礎(作曲法講座1)	音楽世界社
楽器編成法	白眉出版社



◀「浜辺の歌」の自筆楽譜などが収蔵されているピアノ型の展示ケース

「Rond」

現在第1楽章のみが知られている「ソナーナ」は留学時代の作品で、故郷・秋田で行われた帰国記念演奏会では為三先生自身がこの曲を演奏したとの記録が残っています。「Rond」と「ソナーナ」両曲の主題には強い関連を見出すことができます。このことから「Rond」は「ソナーナ」の不明である後続楽章のひとつではないかと推測されますが、このことから「Rond」は「ソナーナ」の不明である後続楽章のひとつではないかと推測されま

せん。

昭和63年に開館した浜辺の歌音楽館は、さまざまな視点から為三の音楽活動とその歴史を紹介します。1階のリスニングルームでは、為三作品や日本の代表的な歌曲や童謡を聴くことができます。

2階の出会いステージでは、為三の代表的な曲をピアノが自動演奏する中、マリオネットのピエロ、おしゃべりカナリヤ、為三そつくりのロボットたちが会話を始めます。この会話を通して、為三の音楽に対する考え方、出会った人々などをわかりやすく紹介します。同時に後方のマルチスライドでは、会話に合わせて当時の写真をもとにしたスライドショーが次々と変わっていき、目と耳を通して多角的に紹介しています。また「浜辺の歌」「望郷の歌」の

一標題を伴っているユニットな作品です。曲名より『四季』という名のピアノ組曲の存在が推測されるものの、確認はされていません。古典的形式、伝統的調組織にのつたりながらも、前衛的なたたずまいや、不確かな調性の揺らぎが、ファンタステイックな情緒を醸し出しています。なお、あくまで私見ではあります

が、為三先生の師である山田耕筰のピアノ作品との類似を感じます。

菊池氏による発見曲の所感

今年は為三没後60年

昭和20年10月29日、為三は脳溢血のため51歳の生涯を閉じました。没後60年のこの年に5年前に発見されたピアノ作品2曲の県内初演が為三の業績を顕彰する浜辺の歌音楽館で行われることは、意義深く、音楽史上、高い価値を持つと思われます。

今から20年前の没後40年、昭和60年には、為三未発表の管弦楽曲「二つのローマンス」が国立音楽大学の同窓生によるコンサートで初演されており、偶然に驚かされます。

浜辺の歌音楽館で為三に出会う

自筆楽譜や愛用の時計などの展示のほか、ドイツで学んだ作曲技法や輪唱曲の普及に関する著作なども紹介しています。「秋一月を仰ぎ(四季のうち)」と「Rond」の2曲についても音楽館で観聽することができます。受付へご要望ください。

郷土の生んだ偉大な作曲家、成田為三先生は「歌う音楽」の作曲家と誤解されていることを残念に思います。先輩は西洋音楽を日本に移植させようと、音楽教育の基礎を築いた先駆者、培養者であります。そのすればらしい業績を私たち市民が知らないところでも多いことを期待しています。郷土の先覚に学び、あとに続くもの一人でも多いことを願っています。是非とも多数の皆様のご来館をお願いいたします。

郷土の生んだ偉大な作曲家、成田為三先生は「歌う音楽」の作曲家と誤解されていることを残念に思います。先輩は西洋音楽を日本に移植させようと、音楽教育の基礎を築いた先駆者、培養者であります。そのすればらしい業績を私たち市民が知らないところでも多いことを期待しています。郷土の先覚に学び、あとに続くもの一人でも多いことを願っています。是非とも多数の皆様のご来館をお願いいたします。

文化創造の礎の館 やかた

く市民の心のシンボルく

浜辺の歌音楽館長
金 新作久●交通案内
秋田内陸縦貫鉄道、
米内沢駅より徒歩15分